

指定都市社協・民児連連絡協議会(堺市) 2

(北区)まちづくり塾「地域の底力を高めよう」 3

暑中お見舞い申し上げます 4

(特集)生野区「こ近」助。パワフルサポート事業 6

第57回大都市社会福祉施設協議会(大阪市大会) 8

各区社会福祉施設連絡会の取り組み 9

(住吉区)クラウドファンディング交流事業 11

はじめましてーこんにちはー 12

特定非営利活動法人 フォロ 12

# 大阪の 社会福祉

2014.8  
711

The social welfare  
in OSAKA



社会福祉法 大阪市社会福祉協議会

<http://www.osaka-sishakyo.jp>

## 新たな地域のつながりを創造する

### 大阪市主管で大都市協

第57回大都市社会福祉施設協議会(大阪市大会)が7月17・18日、シエラトン都ホテル大阪で「大都市における社会福祉施設に、今、求められることは、新たな地域のつながりを創造する」をテーマに開催された。

全国の政令指定都市から、社会福祉施設代表者、社協役員・関係行政職員など280人が参加した本大会は、主管都市として大阪市社協および大阪社会事業施設協議会で構成する大会実行委員会が運営にあたった。大会は、17日午後・18日午前の2日間にわたり開催された。

## 定例会で 情報共有

### 区社協会長会

今年度2回目の区社協会長会が7月22日、市立社会福祉センターでおこなわれた。

4月に開催された会長会以降に就任した新任の区社協会長の紹介があった後、昨年度、区社協で取り組んだ主な事業実績について報告がおこなわれた。

が、これに先立ち、17日午前には運営協議会が開かれ、本大会の運営方法や前回の神戸市大会の経過報告および処理報告などについて承認された。

また、政令指定都市のうち正会員となっていないオプザーバー都市の早期の正会員化に向けた依頼についてや、本大会でとりまとめの要望書の提出方法についても協議がおこなわれた。その後、午後1時に本大会が開会。翌日まで続く、各種講演や種別研究会などが始まった。

### 【8・9面に関連記事】

また、本年1月より東淀川区と西成区の両区社協が事業を実施し、現在、浪速区ほか4区で公募されている生活困窮者支援モデル事業の現状と今後の対応についても報告がされた。

続いて、現在、市社協にて検討が進められている中期経営計画についての説明があり、市社協が外郭団体の指定を解除されたことや、7月17・18日に開催された第57回大都市社会福祉施設協議会(大阪市大会)の報告があった。



前号で柿の葉のお茶の話を書いたが、今度は赤しそのジュースやフキの砂糖菓子など現代の都会の暮らしからは縁遠い食べ物、

次々と届いた▼若者にそれを食べてもらおうと、ジュースはそれなりに口に合ったようだが、フキは想像の枠を大きく外れていたようで、「バツタになったよ」と、彼らの贅沢な日常を思わせる感想。食べなくても困らないことで、自然の中にある匂いや苦みを味わえない若者が増えている▼コンビニなどで賞味期限切れで廃棄される食品の多さを反省し、賞味期間を長くする話も出ているが、地球上の多くの地域が食糧難であるなか、私たちは食べられるものを無駄にし過ぎてきたようだ▼ある観光地で、8月15日の終戦記念日にイモのつるの糠漬けを客に提供する土産物屋に会った。「戦中、戦後はこのようなものを食べ生き延びた」ことを若者に伝えたいからと。その方が今どうしているかは不明だが、そのエピソードは心に残っている▼戦争は、毎日の食料もままならない日々を私たちに強いる。平和であることで福祉は守られている。フキやイモのつるを噛みしめ、平和に感謝したい。(石)

# 指定都市社協・民児連連絡協議会

## 生活困窮者自立支援に関する取り組み

指定都市社協・民児連連絡協議会が7月24・25日、ホテル・アゴラ リージェンシー堺で開催され、各指定都市から社協・民児連役員など145人が参加した。

1日目は、厚生労働省社会・援護局の金井正人地域福祉課長より、今後の生活困窮者支援について報告があった。平成26年6月現在でモデル事業を実施している自治体は全国で254団体あり、今年度モデル事業を通して総合的に評価し、平成27年度の制度の施行に向け検討されていくこととなる。

続いて、社協と民児連とに分かれ、今日的課題について協議をおこなった。

社協は、生活困窮者自立促進支援モデル事業の取り組み状況について協議をおこなった。

地域のネットワークを長年の活動で築き上げてきた実績を持つ社協は、これまで培ってきた特色を活かし、強みと弱みを踏まえつつ、生活困窮者支援に関わっていく。また、生活困窮者支援は社協の本質的な事業であり、行政からの委託事業だけでなく、既に実施している社協事

業に困窮者支援の意味合いを加えるなど関係機関や地域とのネットワークを活かし関わっていく必要があると話し合われた。

その他、住民と協働する個別支援ワーカー(CSW)の配置やその実践のあり方に関する情報交換がおこなわれた。

一方、民児連では2つの分科会がおこなわれ、共通議題として、生活困窮者自立支援に関する民生委員・児童委員の関わりについて協議したあと、地域における孤立・孤独防止に関わる見守り・支援ネットワークの推進などの3議題について協議がおこなわれた。

2日目は、前日の分科会の報告のあと、次期開催の浜松市からあいさつがあり、終了した。

## 暑い夏の日

## 就活も熱く

### 就職フェア

「福祉の就職総合フェア 2014 in OSAKA」が7月

## ご寄付いただきました

大同生命(株)とA I U損害保険(株)から、「ビッグハート・ネットワーク」(納税協会会員の方の紹介で大型保障制度に加入があった場合に、収益の一部で社会貢献事業に支援する活動)として、大阪市社協に対し、95万6350円が寄付された。

7月10日に寄付收受式をおこない、市社協事務局長より感謝状が贈呈された。



19日、インテックス大阪で開催された。

主催は、大阪府・府社協・府福祉人材支援センター・全社協で、大阪市・堺市・東大阪市と各市社協が共催。この福祉業界の合同求人説明会に大阪府下にある福祉関係250法人がブースを出展。来春卒業予定の学生や一般求職者など1600人を

## 元気通信

城東区東中浜地域から  
「高齢者見守り隊の家」  
スタートアップ

高齢者が困りごとをご近所や気軽に相談することができ、日頃から見守り支援あう地域をめざして、東中浜

地域では「高齢者見守り隊の家」の活動が始まった。

「見守り隊の家」は、おおむね70歳以上の高齢者をサポートする組織として、趣旨に賛同した人が登録できる。主な活動内容は①高齢者が困ったときに相談を受ける(相談機関などへつなぐ)②災害時や緊急時のサポート③自宅に「高齢者見守り隊の家」の旗(II写真)を掲示する④定期的な情報交換会への参加となっている。

この活動は、東中浜校下アクションプランプロジェクトチームが中心に企画。メンバーは日頃から地域で高齢者と関わる機会が多く、その中で感じていた課題を出発



「これは日頃から見守り隊の家の登録者と一緒に活動をつくりあげていき、高齢者がここに住んでいてよかったと思えるような東中浜にしたい」と力強く語った。

点として、他都市・他区の事例も参考にしながら検討を重ねてきた



II写真。身近な地域の人が聞き役・つなぎ役となることで、困りごとを抱え込まず気軽に相談しやすくなるのがこの活動のポイント。また「子ども110番の家」のように旗を掲げることで、サポートの存在が多くの人に認識され、地域全体で高齢者を見守る雰囲気をつくることもねらいとしている。

現在、各町会を通して登録者を受け付けており、8月には1回目の情報交換会を開催予定。登録者は、地域役員のみならず「これを機に地域で何かしたい」という人もおり、地域活動への参加の新たな入口としても期待される。

超える来場者があった。

各法人・事業者の個別ブースでは、それぞれの特色や求める人材などについて、施設職員や採用担当者と求職者が互いに熱心に話をする姿が見られた。

会場には、法人ブースのほか、福祉人材支援センターによ

## 北区

# 地域の底力を高めよう！

北区まちづくりセンターは、6月から7月にかけて4回連続講座「北区まちづくり塾」を開催し、延べ118人が受講。企業や福祉施設などから20歳代、70歳代と幅広い世代が参加し、多種多様な構成となった。

同講座は、どの地域でも課題としてあげられる4つのテーマに絞って実施。さまざまな地域の活動に向けて、そのポイントやコツが伝えられた。毎回、ワークショップ形式で進められ、受講者間の交流も図られた。

第2回のテーマは「新しい担い手の巻き込み方」について。2つの事例の発表とグループワークで仲間づくりに必要なポイントを共有したII写真。

菅北地域活動協議会の奥村憲



の自主運営の自転車駐輪場『ウメチャリ』。落書き消しを兼ねたアート壁画制作や違法な客

る就職相談や中高年齢者・障がい者・母子家庭などの就労相談、各種職能団体による資格取得・就職活動・ボランティアなど各分野の専門相談コーナーも設けられ、求人情報だけでなく、福祉の仕事や資格などに関するさまざまな情報についても

嘉副会長は、地域広報委員会の立ち上げの事例を紹介。今までの地域活動に関わりの少なかった次世代に対して個別に声をかけをし、気軽に参加できる形で、30歳～55歳の若い人材を発掘。最初に広報活動に従事してもらったところ、連帯感が生まれ、活発になってきたため、これにとどまらず、他の地域課題の取り組みへの従事につなげていくと話した。活動の次の段階も計画していることが、担い手育成の大きなポイントであった。

もう1つの事例は、キタ歓楽街環境浄化推進協議会の難波啓祐さんが紹介した、放置自転車

相談できることもあり、終日にぎわった。

また、福祉の仕事の魅力ややりがい、職務や就職活動における大切な視点などについてパネルディスカッションによる「就活応援セミナー」も同日の午前

引き対策「梅田まち案内エスコート」など、興味をひく事業の仕掛けを作り、SNSやメディアの力を使って地域外の人たちに呼びかけ、多くのボランティアが集まった。事業を進めながら、社会調査やアンケートなど外部の評価を実施し、改善を繰り返している。この事例も中長期展望まで見据えた計画がたてられていた。

第2回目のまとめとして、関西学院大学の岩本裕子助教は、地域内にいる人にていねいな仕掛けを作り、巻き込んでいく方法と、地域外にいる人に広く呼びかける方法の2つが考えられ、内外をうまく使い、多様な人が参加できる仕掛けを考えることが大切であり、仲間づく

ポイントであると話した。全講座終了後のアンケートでも「大変参考になった」「地域に持ち帰り広めたい」など好評であった。

## 世代をつなぐ地域活動者に聞く

更生保護女性会、地域活動協議会などで活動し、次世代の担い手育成にも積極的な港区築港地域の阪上眞奈美さんに伺

—活動参加のきっかけは？

子どもが小学生の頃、学校で配付された大阪市の人材バンクのチラシを見て、茶道・華道の講師をしていた経験を活かせたらと登録を考えました。そのとき、校長先生から「まずはうちの学校でしてみませんか？」と声をかけられ、PTA主催で教室を始めると、PTA役員になり、その後、主任児童委員になりました。

—活動の魅力、やりがいは？

自分の特技や興味のあること、好きなことを地域活動のなかで叶え、つなげていけることが魅力と感じています。

講演会で、テーマに合わせてアーティストや落語家と呼んだり、「こんなことできないかな？」と体験学習をみんなで企画したり。地域活動の後輩たちには「好きなことをやりたかったら、グループの長になったらいいよ」と話しています。

—より多くの人に地域活動に参加していただくためには？

活動は「楽しい」「やりた

「広報みなと」の配布事業は、有償活動として実施しています。気軽に取り組めるため、若い人が地域で活動する機会になればと考えています。すべての活動を「みんなと一緒に」ではなく、興味・関心に沿ったプロジェクトベースの考え方で、地域に関わる担い手を広げていきたいです。



# 暑中お見舞い申し上げます



社会福祉法人  
**大阪市社会福祉協議会**

会 長 乾 繁夫  
 副会長 清水 弘 北尾 一  
 白國 哲司 中田 浩

<p><b>大阪市社会事業施設協議会</b></p> <p>会 長 中 田 浩 (大阪市児童福祉施設連盟)          副会長 近 藤 適 (大阪市保育所連合会)          副会長 後 藤 静 男 (大阪市老人福祉施設連盟)          副会長 木 島 初 正 (大阪市生活保護施設連盟)          副会長 永 岡 正 己 (大阪市地域福祉施設協議会)          副会長 宇 野 達 美 (大阪市障害児・者施設連絡協議会)</p> <p>【事務局】 〒543-0021          天王寺区東高津町12-10 大阪市立社会福祉センター内          電 話 6 7 6 5 - 5 6 1 0 F A X 6 7 6 5 - 5 6 0 7</p>	<p>公 益 社団法人 <b>大阪市ひとり親家庭福祉連合会</b>          (旧：社団法人 大阪市母と子の共励会)          会 長 小 林 真 喜 子</p> <p>〒531-0071          北区中津1-4-10          大阪市立愛光会館内          電 話 6 3 7 1 - 7 1 4 6          F A X 6 3 7 1 - 6 7 2 2          http://www.kyoureikai.org/</p>	
<p>のぼそう！健康寿命、担おう！地域づくりを          一般社団法人  <b>大阪市老人クラブ連合会</b>          理事長 中 保 昌</p> <p>〒556-0017          浪速区湊町1-4-1          OCATビル3階          電 話 6 6 3 5 - 3 2 2 6          F A X 6 6 3 5 - 3 2 2 9</p>	<p>住み慣れたまちで、安心して暮らせる社会に          社会福祉          法 人 <b>大阪市手をつなぐ育成会</b>          理事長 小 泉 いと子          役員・会員一同</p> <p>〒543-0021          天王寺区東高津町12-10          大阪市立社会福祉センター内          電 話 6 7 6 5 - 5 6 2 1          F A X 6 7 6 5 - 5 6 2 3</p>	<p>社会福祉法人 <b>一 隅 苑</b>          我孫子地域在宅サービスステーション          居宅介護支援（ケアプランセンター）          デイサービスセンター          ホームヘルプセンター          在宅介護支援センター</p> <p>〒558-0013 住吉区我孫子東1-4-37          電 話 4 7 0 0 - 1 0 0 0          F A X 4 7 0 0 - 1 0 0 9</p>
<p>社会福祉法人 <b>愛徳福祉会</b>  <b>大阪発達総合療育センター</b></p> <p>南大阪小児リハビリテーション病院（保険医療機関）          わかば（医療型障害児入所施設）          ふたば（児童発達支援センター・保育所等訪問支援事業）          いぶき（特定相談支援事業・障害児相談支援事業）          あおば（児童発達支援事業）          フェニクス（医療型障害児入所施設・療養介護事業・短期入所事業）          なでしこ（生活介護事業・児童発達支援事業）</p> <p>〒546-0035 東住吉区山坂5-11-21          電 話：6 6 9 9 - 8 7 3 1 F A X：6 6 9 9 - 8 1 3 4</p>	<p>理事長 梶 浦 一 郎</p> <p>あおば（児童発達支援事業）電 話&amp;FAX：7 5 0 7 - 1 2 7 7          訪問看護ステーション めぐみ（指定訪問看護事業）          電 話&amp;FAX：6 6 9 9 - 8 8 5 5          ヘルパーステーション めぐみ（指定訪問介護事業）          電 話：7 5 0 6 - 9 2 2 3          F A X：6 6 9 9 - 8 8 5 5</p> <p>〒546-0035 東住吉区山坂5-9-16</p> <p>大阪発達総合療育センター あさしお診療所（保険医療機関）          あさしお園（児童発達支援センター・保育所等訪問支援事業）          ゆうなぎ園（児童発達支援センター・保育所等訪問支援事業）</p> <p>〒552-0004 港区夕風2-5-3          電 話：6 5 7 4 - 2 5 2 1 F A X：6 5 7 4 - 2 5 2 4</p>	<p>社会福祉法人  <b>今 川 学 園</b>          理事長 魚 住 誠 一</p> <p>〒546-0003          東住吉区今川3-5-8          電 話 6 7 1 3 - 6 1 0 6</p> <p>保育所・隣保館・子どもの家・          キンダーハイム・大和川園・今林の里・          ふれあいホーム・ハーモニ・          ワークセンターいまがわ</p>
<p>社会福祉法人 <b>大阪自彊館</b>          理事長 吉 村 和 生          常務理事 酒 井 喜 正</p> <p>〒557-0014          西成区天下茶屋1-3-17          電 話 6 6 5 9 - 8 0 0 0          F A X 6 6 5 2 - 2 2 1 8          http://www.ojk.or.jp</p>	<p>社会福祉          法 人 <b>大阪市障害者福祉・スポーツ協会</b>          理事長 山 田 俊 平</p> <p>〒543-0021 天王寺区東高津町12-10 電 話 6 7 6 7 - 9 9 8 1</p> <p>◇運営事業所一覧◇          大阪市長居障がい者スポーツセンター 大阪市舞洲障がい者スポーツセンター[アミティ舞洲]          大阪市更生療育センター 中津更生園 大阪市立中央授産場 大阪市立千里作業指導所          大阪市立此花作業指導所 粉浜作業指導所 中津サテライトオフィス 大阪市立早川福祉会館          サテライト・オフィス平野 大阪市障がい者基幹相談支援センター 大阪市職業指導センター          大阪市職業リハビリテーションセンター 大阪市障がい者就業・生活支援センター          大阪市発達障がい者支援センター [エルムおおさか] 大阪市立舞洲就労支援所</p>	<p>社会福祉法人  <b>柿 の 木 福 祉 の 園</b>          理事長 宮 川 ヒ サ</p> <p>〒558-0004          住吉区长居東4-11-16          電 話 6 6 9 1 - 3 6 6 9          F A X 6 6 9 1 - 8 2 9 2          http://www.kakinoki.or.jp</p>
<p>訪問介護に関する相談等は          社会福祉          法 人 <b>大阪市ホームヘルプ協会</b>          会 長 矢 田 貝 喜 佐 枝          理事長 森 田 博</p> <p>〒531-0041          北区天神橋7-12-6          (グレーシィ天神橋2号館)          電 話 (総務課) 6 8 8 1 - 5 4 3 1          ホームヘルプセンター 6 8 8 1 - 5 4 4 0          ケアプランセンター 6 8 8 1 - 5 4 4 1</p>	<p>社会福祉法人  <b>大阪重症心身障害児者を支える会</b>          理事長 寺 岡 富 子</p> <p>〒545-0021          阿倍野区阪南町2-23-11          電 話 6 6 2 2 - 3 7 5 9          F A X 6 6 2 2 - 3 7 6 9          E-mail center@sasaeru.or.jp</p>	<p>社会福祉法人  <b>柿 の 木 福 祉 の 園</b>          理事長 宮 川 ヒ サ</p> <p>〒558-0004          住吉区长居東4-11-16          電 話 6 6 9 1 - 3 6 6 9          F A X 6 6 9 1 - 8 2 9 2          http://www.kakinoki.or.jp</p>

<p>社会福祉法人 <b>きれ福祉会</b></p> <p>〒547-0025 平野区瓜破西1-8-45 電話 6799-5112 FAX 6799-5113</p> <p>障害福祉サービス事業所 障がい者支援センター ユーアンドアイ 介護サービス サポートわかっか</p>	<p>社会福祉法人 <b>久栄会</b></p> <p>理事長 岩崎久直</p> <p>〒544-0013 生野区巽中3-14-3 電話 6756-5200 FAX 6756-6688 <a href="http://www.minori-en.com/">http://www.minori-en.com/</a></p>	<p>社会福祉法人 <b>治栄会</b></p> <p>理事長 大森節</p> <p>〒534-0027 都島区中野町5-10-70 電話 4253-8055 FAX 4253-8066 E-mail <a href="mailto:info@jieikai.or.jp">info@jieikai.or.jp</a> <a href="http://www.jieikai.or.jp/">http://www.jieikai.or.jp/</a></p>
<p>0~100歳超がにぎやかに集う 社会福祉法人 <b>四恩学園</b></p> <p>理事長 金戸述</p> <p>〒558-0011 住吉区苅田4-3-9 電話 6607-2220 FAX 6696-5347</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●5つの保育園が連携して子育て支援 るり保育園・乳児保育園 みろく保育園(夜間)・るり2保育園 みろく2保育園(夜間) 子どもの家・子育て支援センター</li> <li>●高齢者在宅支援 住吉区東地域包括支援センター デイサービス・認知症対応型デイサービス (お泊りOK)・ホームヘルプセンター 在宅介護支援センター</li> <li>●乳児院(住吉区)・児童養護施設(天王寺区)</li> </ul>	<p>社会福祉法人 <b>四天王寺福祉事業団</b></p> <p>理事長 瀧藤尊淳 常務理事 坂本峰徳 常務理事 森田惇朗</p> <p>〒543-0051 天王寺区四天王寺1-11-18 電話 6771-7971 FAX 6771-8961</p>
<p>社会福祉法人 <b>晋栄福祉会</b></p> <p>理事長 濱田和則 法人本部 岡村美範 事務局長 西村法雄</p> <p>〈鶴見区〉茨田大宮ちどり 施設長 川東 祐憲 〈都島区〉東野田ちどり保育園 園長 江川永里子 〈城東区〉城東ちどり保育園 園長 瀬崎 健二 〈東成区〉東中本保育所 所長 高田 幸代 〈大正区〉北恩加島保育所 所長 藤本麻里子 〈北区〉中之島ちどり保育園 園長 小林 操</p>	<p>社会福祉法人 <b>水仙福祉会</b></p> <p>理事長 松村 寛</p> <p>〒533-0004 東淀川区小松1-14-12 電話 6328-3786 FAX 6328-3833 E-mail <a href="mailto:honbu@suisen.or.jp">honbu@suisen.or.jp</a> <a href="http://www.suisen.or.jp/">http://www.suisen.or.jp/</a></p>	<p>社会福祉法人 <b>聖家族の家</b></p> <p>理事長 中田 浩</p> <p>〒546-0033 東住吉区南田辺4-5-2 電話 6699-7221 FAX 6699-7243</p> <p>児童養護施設 聖家族の家 乳児院 聖母託児園 情緒障害児短期治療施設 児童院</p>
<p>社会福祉法人 <b>大念仏寺社会事業団</b></p> <p>理事長 杉田善久</p> <p>〒547-0045 平野区平野上町1-7-3 電話 6791-5410</p> <p>大念仏乳児院、ボ・ドーム大念仏、 ボ・ドーム、子どもの家「童夢」、 いちよう保育園、いちようベビーセンター、 ひらのドリーム園、ドレミ広場</p>	<p>社会福祉法人 <b>なみはや福祉会</b></p> <p>理事長 竹本 榮</p> <p>〒543-0021 天王寺区東高津町12-10 大阪市立社会福祉センター内 電話 6761-3010 <a href="http://www.namihaya.or.jp">http://www.namihaya.or.jp</a></p>	<p>社会福祉法人 <b>日本ライトハウス</b></p> <p>理事長 橋本照夫</p> <p>〒538-0042 鶴見区今津中2-4-37 電話 6961-5521 FAX 6968-2059 <a href="http://www.lighthouse.or.jp/">http://www.lighthouse.or.jp/</a></p>
<p>やさしさと思いやりのある介護 社会福祉法人 <b>ビーナス福祉会</b></p> <p>理事長 田村文子</p> <p>〒551-0003 大正区千島1-23-26 電話 6553-4800 <a href="http://www.venushome.jp/">http://www.venushome.jp/</a></p>	<p>社会福祉法人 <b>みおつくし福祉会</b></p> <p>理事長 奥村 健</p> <p>〒543-0021 天王寺区東高津町12-10 大阪市立社会福祉センター内 電話 6765-5611 FAX 6765-5614 <a href="http://www.miotsukushi.or.jp/">http://www.miotsukushi.or.jp/</a></p>	<p>社会福祉法人 <b>みなと寮</b></p> <p>理事長 大西豊美 常務理事 中谷庄八 常務理事 廣田憲司 事務局長 笹井 信</p> <p>〒552-0014 港区八幡屋4-8-1 電話 6571-6231</p>
<p>社会福祉法人 <b>都島友の会</b></p> <p>会長 三宅理之 理事長 渡久地 歌子</p> <p>〒534-0021 都島区都島本通3-4-3 電話 6921-0321 FAX 6924-2055 <a href="http://www.miyakojima.or.jp">http://www.miyakojima.or.jp</a></p>	<p>福祉分野の広報・宣伝はお任せください リーフレット、ホームページなど 各種宣伝物の企画・制作</p> <p>株式会社 <b>きかんしコム</b></p> <p>〒601-8205 京都府京都市南区久世殿城町330-1 電話 075-935-1115 FAX 075-935-5100 <a href="http://www.3mediapark.co.jp/com/">http://www.3mediapark.co.jp/com/</a></p>	

# 「困りごとを抱える人」と

## 「お手伝いしたい人」を橋渡しする

### ご近助パワフルサポート事業

「一人ひとりの困りごとを見逃さない福祉のまちづくり」は、生野区社協が掲げるスローガンです。困っている人が少数であっても見逃さず、声なき声を大切にす方針のもと、生野区社協では、ご近所だからこそできる助け合い活動「ご近助パワフルサポート事業」（区委託事業）を平成25年7月からスタート。公的サービスだけでは解決できない課題が増えるなか、地域で埋もれがちなニーズを的確につかみ、失われつつあるご近所付き合いを再構築し、安心して暮らせるまちづくりをめざしています。

#### 小地域における新たなつながりづくりに向けて

事業の基本的な流れは、①ボランティア登録を募り、②各地域の福祉コーディネーターが「困りごとを抱える人」の相談を受け、③訪問してニーズを把握、④「手助けするボランティア」を橋渡しし、⑤ボランティア活動がおこなわれるというもの。活動は「無償」（修理や交換にかかる部品代や材料費などは依頼者の実費負担）でおこなわれます。

生野区社協が事務局となり、区内全19地域に12人（複数地域担当も含む）の福祉コーディネーターを配置。事業開始からの相談件数は363件、ボランティア登録数は155人、困りごとの支援件数は50件を数えます。

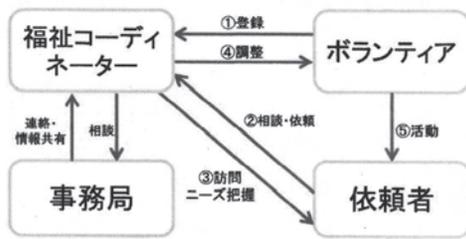
ボランティアは随時募集中ですが、現在の登録者の中には、長年地域で活動してきた人もいれば、「これを機に地域デビュー



# 特集

※区社協が重点事業として取り組んでいる事業を紹介しています。

#### ご近“助”パワフルサポート事業の流れ



※ 福祉コーディネーターは、各小学校ごとの担当に分かれています。

「したい」という人も。各地域での活動基盤やネットワークを活かしながら、新たな担い手も加わり、支え合い活動の輪が広がっています。

#### 〈主な活動内容〉

- ・ひとり暮らし高齢者の見守りや外出時の付き添い
- ・花の水やりや買い物の手伝い
- ・話し相手がほしい
- ・電球の交換やちよつとした大工仕事
- ・重い荷物の移動
- ・障がい児の通学支援など

#### 〈困りごと解決事例〉

● **高齢者見守り支援**  
要介護2の父と同居の母（ともに80歳代）について、離れ

たところに住む娘から見守りに関する相談。デイサービス利用日を中心に母親の外出支援をおこなう。

#### ● 障がい児通学支援

・視覚障がいのある児童の母親から「骨折してしまい、バスの停留所まで送迎ができなくなった」と相談。福祉コーディネーターが状況確認後、校下社協会長へ相談。町会の協力を得て、ボランティアが見つかる。また区内の施設職員もボランティア登録し、支援に参加。ヘルパーも利用できることになり、さまざまな協力で通学支援につながる。

#### ● その他の困りごと

・「腰の手術をしたところで、ベッドの移動を手伝ってほしい」という相談。その他の家具の移動も必要だったことから、コーディネーターとボランティア男性2人で訪問して解決。

・「車いすでお墓参りに行きたい」という相談。お盆の期間中にボランティアが行き帰りの同行を予定している。

#### これまでの経験を活かした福祉コーディネーターの活躍

「立ち上げから1年が経ち、

当初は区社協に直接入ることが多かった相談も、コーディネーターの活動の成果で、地域で直接、相談を受けることが増えて「います」と区社協地域支援担当の小山義和さん。

福祉コーディネーターの経歴は、従前のネットワーク推進員をこれまで10年近く務めた人から当事業で初めて福祉活動に携わる人までさまざまです。これまでの経験や持ち味をそれぞれ活かし、区社協・登録ボランティアをはじめ、各地域での福祉活動とも連携しながら事業を進めています。

#### 〈福祉コーディネーターの声〉

・ ネットワーク推進員の時は、継続した支援が必要な困りごとを発見したり、周囲の人から相談や情報を寄せられることが多くありました。この事業では、ちょっとした困りごとを本人から相談してくれたら、単発で解決できそうなことも多いのですが、その奥にはさらに複合的な課題を抱えているケースもあります。推進員のときと同じ気持ちで、悩みや困りごとを見逃さないようにしたいです。

・ 地域の大きな行事で「ご近所助」パワフルサポートの

チラシを配布。「何かあったら相談しようと思って、その時もらったチラシをとっておいだ」と相談に来られたケースがありました。支援を必要とする方に情報が届くように心がけていきたいです。

・ 困りごとがあっても、なかなか言い出しにくく、抱え込んでしまう人もいます。そこで何かあれば記入して相談できる『お困りごと受付カード』をつくり、地域の集まりなどで活用しています。今は他の地域にも広がっています。

・ ご本人からだけでなく、周囲の方から「最近、〇〇さんが心配だ」という声を聞くことがあります。日頃からのつながりができるよう、町会への加入などを個別ではたらきかけることもあります。

・ 「特技は大工仕事や電気関係だ」という男性ボランティアが活躍しており、とても心強く感じています。

・ 信頼関係を築くため、どんな相談でもまずは受け止め、その結果を必ず相談者に報告するようにしています。

# Feature



7月16日  
福祉コーディネーター座談会

・ 福祉活動は未経験で、他地域に住んでいるので、まずは顔を覚えてもらおうと、食事サービスマンやふれあい喫茶などの場に出向いています。一方、郵便局やコンビニ、接骨院などにも本事業について説明し、ポスター掲示の協力を得ることができました。これまでの営業事務の経験を活かしたコーディネーターをめざしています。

福祉コーディネーターに寄せられる相談には、他機関との連携が必要なケースはもちろん、「入院が長引くのでペットの世話をしてほしい」など現行の制度やボランティアでは対応が難しいケースもありますが、どんな相談も受け止める姿勢は、これまで潜在化していたニーズの掘り起こしにもつながっています。

小山さんは「区社協として

も、この事業を通して、障がい児の通学支援のニーズを改めて実感するなど、制度の狭間となる課題を明らかにすることにもつながっている」と話します。

### ボランティアとともに 困りごとの解決をめざす

ボランティア活動は、困りごととの相談に応じて調整するため、「地域の役に立ちたい」「こんな特技を活かしたい」と登録をしても、すぐに活躍の場があるとは限りません。そこで「まだ活動の機会がない人も含めて、登録者みんなのボランティア意識を高めよう」という福祉コーディネーターの発案で、区内の4ブロックごとに福祉コーディネーターとボランティア登録者の茶話会を開催。近隣地域で同じ思いをもった人同士が集まり、また実際の活動事例も共有することで、モチベーションアップにつながりました。特技や条件によっては、地域を越えてマッチングするケースもあることから、今後も継続的に交流の場を設けていく予定です。

生野区社協では、地域で暮らす人同士をつなげ、「近くにいるからできること」を積み重ね、住民一人ひとりが安心して暮らせるまちづくりをめざしています。

# 第57回大都市社会福祉施設協議会

## 社会福祉施設に、今、求められること

～新たな地域のつながりを～

### 17日 開会式・記念講演

第57回大都市社会福祉施設協議会（大阪市大会）が、7月17日の午後1時、後藤静男副実行委員長の開会宣言により開幕した。その後、主管者を代表して中田浩実行委員長からのあいさつ、大阪市の村上龍一副市長から来賓祝辞があり、前回大会主管の神戸市から第56回大会の処理報告がおこなわれた。

開会式の後、記念講演として京都大学霊長類研究所の正高信男教授により「人とコミュニケーション」をテーマに話がされたII写真。正高教授は、「ヒトを含めた霊長類のコミュニケーション」をテーマに研究をおこなっており、NPO法人発達障害療育センターの理事長も務めている。

講演では、正高教授が、発達障がいのひとつである学習障がい（LD）特有の読み書きの困難さに着眼し、それをもたらず認知機能と脳機能の関連について解明し、独自に研究開発した国語向上機能アプリケーション「コトバロメーター」について、TV取材・放映された映像とともに紹介された。

### 種別研究会

記念講演に引き続き、大都市の社会福祉施設のあり方や課題などについて、研究・討議を重ねるとともに共通理解を深め、施設サービスを向上させることを目的に、次の6つの種別研究会がおこなわれた。

経営・老人・児童・保育・障がい・生活福祉の各種別研究会

### 児童福祉研究会

11都市49人が参加し、主に次のような内容の研究討議がおこなわれた。

- ①児童養護施設などの小規模化および家庭的養護の推進  
小規模化・グループケアの推進は各都市ともに進んでおり、子どもたちの生活環境としてはよい方向性であるが、職員配置や質の向上が課題となっていることが話され、職員配置基準が

- ②「本体施設の小規模化」（厚労省のいう本体施設の定員45人以下の基本姿勢）  
各地域の現状や施設の状況にあわせて進められていくことが話された。
- ③施設と里親との連携強化  
連携強化をより具体的に進め

本研究会では、児童養護施設についての議題が中心に討議がおこなわれたが、母子生活支援施設からの参加者も多く、同施設の困難ケースが増えている現状、より個別支援の充実が求められていることなどの話もされた。

### 老人福祉研究会

14都市50人が参加し、主に次の3点を研究討議。

- ①地域包括ケアシステムに対する取り組み  
各都市の実情の情報交換、大都市における地域包括ケアのあり方について討議がおこなわれた。地域包括支援センターを拠点として、医療との連携や社会資源の調整などモデル的な取り組みがおこなわれていることや

- ②高齢者虐待の現状と対応策  
虐待マニユアルの作成や緊急の短期入所ベッドの確保、入所システムの導入などさまざまな対応策が講じられていることが話された。また、民間の高齢者住宅における透明性の課題についても討議された。

また、人材確保・定着、サービスの質の向上の観点から、引き続き、介護報酬の引き上げについて国に働きかけることも話された。

### 経営研究会

13都市40人が参加し、主に次の3点を研究討議。

- ①社会福祉法人のあり方  
公益性・税制優遇などの観点からの社会貢献についての具体的な取り組みとして、まず、助言者の酒井喜正・大阪自彊館常務理事（元大阪府社協常務理事）から大阪で取り組まれている社会貢献事業（生活困窮者レスキュー事業）について説明。

- ②施設の老朽化および建替え  
大都市では、建替え時の財源および土地の確保が課題となっていることがあげられ、国や自治体への働きかけの必要性が話された。
- ③大規模災害の対策

全国的にも各地でライフサポート事業など同様の社会貢献事業が進行していることが紹介された。

社会福祉施設の要援護者の緊急入所対応や福祉避難所の開設など、行政や地域との連携も含めた各都市の状況が話し合われ、特に、大規模災害被災地の神戸市や仙台区の状況を参考にしながら討議が進められた。

また、福祉人材確保の対策について、引き続き国に働きかけることも話された。

で協議された概要は下記のとおり。

## 18日 総会・全体 報告会・特別講演

大会2日目は、午前9時から総会がおこなわれた。

前日に開催された運営協議会の報告では、第54回北九州市大会から東日本大震災で甚大な被害を受けた仙台市が体制が整うまでの間、正会員からオブザーバー参加に変更となっていた経過があるなか、再度、正会員へ変更する際の開催順序についての質疑に対し、次回の京都市大会の運営協議会に引き継がれることとなったこと、また、本大会でとりまとめられた要望書の提出方法として、主管都市以外の都市も同行して提出するなど協力体制をとることが承認された旨が伝えられた。

引き続き、各種別研究会の報告がそれぞれの座長からおこなわれた。

その後、桜美林大学大学院の白澤政和教授により「地域包括ケアと社会福祉法人のあり方」をテーマに特別講演がおこなわれたII写真。

まず、介護保険にみる地域包括ケアについて解説するとともに、地域包括ケアと地域のネッ

トワークの関係についても話し、地域ケアを推進する力は、コーディネートション（IIケアマネジメント）とネットワーキング（IIコミュニティ・ケア）であるとした。

また、介護保険制度の見直しがおこなわれるなかで、生活支援サービスの充実が求められており、社会福祉法人の役割として、この公益事業（生活支援サービス）が期待されているとした。「新たな公共」での社会福祉法人の可能性にふれ、そこでのリーダー役を果たし、いかに地域へ貢献するのか、社会福祉法人としての新たな意義を見出す絶好のチャンスであると、今後への期待を込めメールが送られた。



白澤教授

### 保育福祉研究会

10都市38人が参加し、主に①新制度施行にともなう各都市の動向、②保育士確保に関わる現状と課題の2点の研究討議がおこなわれた。

①新制度施行により各都市の市単費助成の動向や地方版会議への参画および議論の内容について情報交換が図られた。

国から示される新制度の公定価格などを踏まえ市単費助成に

ついても検討されることから、公定価格について、今後も注視していくことが話された。

その他、新制度に関するさまざまな懸念事項についても話し合われた。

また、放課後児童クラブについて、国基準で決められた面積・人員配置で進められているため、設置が困難な状況であるとし、参酌すべき基準を自治政

策にいかすことを考えられないかという意見も出された。

②保育士支援センターを設置し、潜在保育士の掘り起し、養成校へのPR協力など行政が積極的に協力している都市の状況が話されるとともに、「就職フェア・職場説明会・面接会」で人材確保に努めているなどの情報交換が図られた。

ついで、権利擁護の観点から危惧されるなどの意見も出された。

### 障がい福祉研究会

12都市42人が参加し、主に次の3点を研究討議。

①相談支援体制の現状と課題  
各都市における取り組み状況を共有。相談支援事業所の増設が急務の課題であり、平成27年3月末までにすべての障がい福祉サービス利用者に対し、サービス等利用計画を作成することは非常に困難であるなどの意見が出された。

②障がい者の生活の場の保障  
消防法や建築基準法をはじめまちづくりのさまざまな条例と福祉関係の法律との狭間でグループホームは苦勞している。

また、スプリングラーの設置義務に関しては、国庫補助金の活用による促進などの対応策が話された。

なお、グループホームが第2種事業に指定されていることに

③障害者差別解消法の施行に向けての社会福祉施設の役割  
国が示す障害者差別解消法地域協議会を行政・弁護士・有識者・事業所などが一体となった体制整備をする必要性が話された。

### 生活福祉研究会

今後の生活困窮者自立支援に関する取り組みに向けた課題などを研究討議することを目的に、大阪市大会で新設された研究会で、9都市61人が参加した。主な研究討議は、次の4点。

①生活困窮者支援における生活保護施設などがおこなう社会貢献事業の取り組み（生活困窮者支援の相談窓口の設置など）

「救護施設が取り組む生活困窮者支援の行動指針」の方向性に基づき、入所者の自立支援とともに施設機能の地域への開放などの取り組みを進めている広島市の事例を紹介。また、大阪の社会貢献事業（生活困窮者レスキュー事業）について話がされた。

②地域生活支援事業の取り組み  
実践事例が共有され、地域生

活を継続するには、障害者支援相談所や地域包括支援センター、福祉事務所、医療機関などとの連携が重要であることが話された。

③子どもおよび若年層の生活困窮者への支援  
問題が表面化しにくい課題であり、貧困の連鎖を防ぐための取り組みの必要性を討議。

④刑余者支援の現状と課題

## 種別を越えたネットワーク

大阪市内において、区単位で社会福祉施設連絡会が組織され、種別を超えた施設間のネットワーク組織として施設間の連携や協働事業などに取り組んでいる。福祉課題が複雑・多様化してきており、地域と施設のつながりや地域における施設に求められる役割もますます重要となっているなか、それぞれの区や地域の実情に応じて、さまざまな取り組みが展開されている。

### 港区

6月10日に平成26年度総会が開催され、平成25年度事業報告（案）、決算報告（案）、平成26年度事業計画（案）予算（案）などが審議され、原案どおり承認された。今年度は昨年策定された港区地域福祉活動計画の推進にあたり、「社会福祉施設と地域の協働と連携」を考える講座の開催を計画している。

### 西淀川区

6月24日、総会に引き続き「コムセンスペアレンティンプログラム講座（普及版体験）」がおこなわれた。同講座はアメリカで開発された虐待予防プログラムであるが、対人援助に関わる職員にとっても有効な内容であると企画された。NPO法人にしよどにこネット代

### 東淀川区

表理事の原博美さんを講師に招き、映像を見ながら講座の一部を体験した。子どもの成長・発達過程を知ること適切な期待値をもつことや、育みの行動など学んだ。参加者からは、社会スキルは子どもの教育だけでなく職員にとっても重要であると感じた、改めて振り返る機会になったなどの感想が寄せられた。

6月25日に総会および基調講演が開催された。講演では大阪府社協社会貢献室の梅木誠室長を招き「社会福祉法人のあり方をめぐる議論と社会貢献事業（生活困窮者レスキュー事業）10年間の実践から」をテーマに、講演がおこなわれた。

社会福祉法人を取り巻く状況の変化や、社会貢献活動の義務

化といった法人のあり方をめぐる議論とともに府社協の老人施設部会で取り組まれてきた社会貢献事業（生活困窮者レスキュー事業）の実践について学んだ。関心の高い内容に、参加者からは今後の動向も含めて検討していきたいとの声が聞かれた。

### 西成区

7月2日、総会に引き続き、2つの実践報告があった。

1つ目は、山王みどり苑の川崎洋幹施設長と西成区役所の森恵美子防災・防犯担当課長代理より、区施設連絡会をきっかけに地域で実践に至った山王地区における防災の取り組みについて、防災学習会や地域との関わりなどの報告があった。

2つ目は、西成区生活困窮者自立促進のモデル事業（はぎさぼーと）について、西成区社協の川東仙司主任相談支援員から事業概要が説明された。対象者は経済的困窮者のみならず、社会的孤立のケースも多いため、できる限り対象を広く捉え排除のない対応が必要であることや、相談内容や対応、また、具体的な支援ケースについても報告された。

### 住吉区

7月7日、総会に続いての講

演会は「大規模災害時における福祉施設の役割」をテーマにNPO法人さくらネットの石井布紀子さんを迎えておこなわれた。住吉区では今年2月にも石井さんを招いて防災イベントを開催。今回は施設の役割に焦点化し、発災時期・時間帯をふま

えた施設としての対応の判断や、日頃からの想定が必要であることについて、事例を交えて解説。「施設連絡会のように種別を越えたネットワークの構築が、いざというときの連携につながる」と、施設同士のつながりの重要性を強調した。

## 「市民ジョブサポーター」養成講座のオリエンテーション開催

～受講希望者は、必ずオリエンテーションにご参加ください～

誰もが当たり前暮らせることをめざして、障がいのある人の就労や地域生活をサポートするボランティア（市民ジョブサポーター）の第2期養成講座を開講します。

受講後に、第1期生とともに、ボランティア活動（主に平日）をしていただける方、大歓迎。たくさんのご参加をお待ちしています。

### オリエンテーション

- 日時：平成26年9月11日（木）午後2時～4時  
 会場：大阪市社会福祉研修・情報センター（西成区出城2-5-20）  
 対象：大阪市内在住または在勤で、障がい者の就労支援や地域生活支援に関心がある方  
 内容：①障がい者就労の概要と市民ジョブサポーターの役割  
 ②市民ジョブサポーター養成講座について（時期・内容等）  
 ③第1期市民ジョブサポーターの活動について  
 申込方法：8月30日（土）までに、お電話で申込みいただくか、FAXまたはメールの場合は、「市民ジョブサポーター希望」と明記のうえ、住所・氏名・生年月日・性別・電話番号を記載のうえお申込みください。  
 主催・申込先 大阪市ボランティア・市民活動センター  
 TEL 06-6765-4041 / FAX 06-6765-5618  
 E-mail ocvic@osakacity-vnet.or.jp

## 資金獲得の

## 新たな可能性

住吉区社協は「FAAVO（ファアボ）大阪」大阪×クラウドファンディング説明会&交流会」を6月18日に開催した。

クラウド（＝群衆）ファンディング（＝資金調達）とは、志を持った人や団体に対する資金を、ネットを通じて多数の支援者から集め、実現する手法。

地域で活躍するさまざまな団体にとって財源確保や広報が課題となっていることを背景として、地域活動協議会やNPO、市民活動団体、社会福祉施設などに呼びかけ、計73人が参加した。

第1部の講演では、FAAVO大阪を運営する株式会社NFLから、具体的なしくみが解説された。「こんな企画で地域を盛り上げたい」という起案者が、ホームページ上に



企画案を掲載。それに共感した人が、支援者として出資でき、一定期間で目標金額に達すれば、起案者に資金が渡り、企画実現となる。また支援者は出資額に応じて、起案者から商品・特典などを「お礼」として受け取るしくみとなっている。

その後、参加者からのプレゼンテーションもおこなわれ、「大学と協働して小学生向けオンラインキャンプパスをしたい」「高齢者を被写体にした写真展を開き、ネットを使って国際交流につなげたい」といったアイデアが発表された。

第2部は、班ごとにそれぞれの活動や企画アイデアを話し合いながら、地域、NPOといった団体の枠を越えて交流。若手の地域活動者からは「自分たちが主体的に行動しなければ」との前向きな意見が出るなど、今回の企画による地域とNPOや市民活動団体などの出会いをきっかけに、今後、新たな展開を期待させるものとなった。

## 風をよむ

## 『居住福祉』住居は福祉の基礎である

大阪市立大学大学院 准教授 野村 恭代

これは、早川和男氏の著書『居住福祉』（1997）の一節である。早川氏は、「人間にふさわしい居住が、人間としての尊厳を守る基礎であり、安心して生きる社会の基盤である」と指摘する。

加えて、住まいとは到底呼ぶことのできない、ただ雨風をしのぐだけの「場所」で日々過ごしている人々を合わせると、その数は膨大なものになる。

人には、その地にただ「いる」のではなく、そこに「定住」しているという意識が必要である。また、定住するためには、物理的な「場」があるだけでは不十分である。

建築学者である早川氏が福祉における「居住」への支援の脆弱さを指摘してから、すでに17年が経過した。

この間、人々のなかにどれほど居住福祉の意識が醸成されただろうか。居住への支援

「暮らし」を支える「人」の存在があること、人とのつながりがあることにより、その地に定住することが可能となるのである。

誰もが求めているものは、帰り住む「土地」なのではない

とは、住む場所を提供することだけがその目的ではない。その地にその人らしく定住することへの支援をも包含したものでなければならぬ。

く、「その人」がいる地に自分の存在の意味を感じることである。

現在、全国各地において、高齢者、障がい者、刑余者など、住居を確保すること及び居住することに何らかの課題をもつ人々への支援活動が、特定非営利活動法人（NPO）を中心に活発になりつつある。

そして、そのためには、「人間にふさわしい」住居があることが大前提となる。生活は「衣食住」で成り立つと言われるが、先進国である日本においては、「住」は「衣食」の基盤となる。

住居は生活の基盤であり、生活を支援する福祉の基礎なのである。

私たちの法人は、学校に行かない子どもがいる家庭の親たちが中心になって、13年前に立ち上げ、学校の外の居場所「フリースクール・フォロ」と18歳以上なら誰でも立ち寄れる「なるにわ」を開いています。コンセプトの「いるだけで、いい」場の維持は、評価の物差しがないぶん、奥が深く耕し甲斐があります。

子どもや若い人たちがぶつかることがらは、根源的です。だからこそフォロでは、「何かをする・できるようになる」

ちでそれをやりすぎしたり、これからに活かせる具体策を考えたりします。

誰も本人や家族の代わりはできませんが、「教育」や「支援」の枠とは別の、本人視点の格闘を一緒に続けます。

法人としては、守秘義務を課したカンファレンスを定例で開き、スタッフが個別に諸々のことを抱え込まないようにします。社会資源などの勉強も始めました。

例えば、どこかの施設に入所していた子が、退所後いきなり学校に通うのはキ

はじめるよ！

いんぽんちほ

NPO法人のご紹介

「いるだけで、いい」～子ども・若い人、その家族にとっての居場所～

特定非営利活動法人 フォロ

「ことよりも、あくまで「その人が、いる」ことが大事と考えます。

例えば、ある子は、ひたすら気持ちを聴いてほしい。自分に起こったできごとを抱え込むには限界なのでしょう。そうであれば、周りの人はちゃんと聴くのが最優先。また、ある人は、他人への大きな不信がある。一緒にいる人は「じゃ、それを消したい？それとも、その根っこを探ってみる？」という具合です。

また、親や家族にもさまざまな背景があり、自身のことで精一杯で、生活していくことに見通しが立てられない場合もあります。「ならば？」と、メンバーた

ついこともあります。専門職のなかにも

「それに同感」という方がおられます。その施設の役割を知るとともに、有意義な情報共有や連携の仕方も模索し始めました。制度の狭間での苦労は、できるだけ減らしたい。しかし、苦労も持ち寄ってみたら、それらを共有し活かす道も見えてきます。



スキー旅行企画ミーティングのシーン

住所 〒540-0036 大阪市中央区船越町1-5-1  
Tel 06-6946-1507  
Fax 06-6946-1577  
E-mail info@foro.jp



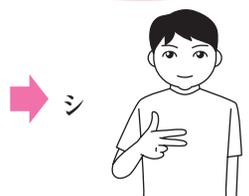
【政令(指定)都市】

(政令) + (シ)



指先を上向き、手のひらを右向きにした左手の  
小指から右人差指を強く倒しながら前に出す。

手話入門



親指と人差指と中指を立て、甲側を示す。

HP <http://www.wel-osaka.jp>

☎ 06-4392-8201

社会福祉研修・情報センター

順) ▼申し込み、問い合わせ・

学の方 ▼定員・100人(先着

務する方、市内在住・在勤・在

りそれぞれの実践報告 ▼対象・

市内の社会福祉関係事業所に勤

同心会研究奨励賞等受賞論文よ

ら、福祉の「今」を考える」、

講演「地域包括ケアの視点か

学院の白澤政和教授による基調

センター ▼内容・桜美林大学大

時 ▼場所・社会福祉研修・情報

日時・9月22日13時30分～16

実践報告会

知る！大阪市内の福祉活動の実

社会福祉講演会「福祉の今を

学び



FranceBed フランスベッド株式会社 <http://www.francebed.co.jp/>

介護保険適用商品からアクティビティ向け商品まで多数取り扱っています。

福祉用具専門相談員が丁寧にご説明いたします。

メディカル大阪営業所 ☎ 06-6353-1211

メディカル大阪池田営業所 ☎ 072-753-4091

プリンターの力を、あなたの仕事の力に。

**ORPHIS EX**  
ビジネス用プリンター

高速カラー 低ランニングコスト 機能拡張性

プリントマシンセンター 株式会社  
〒543-0021 大阪市天王寺区東高津町7-11 (大阪府教育会館内) TEL.06-6764-5567 FAX.06-6764-5441